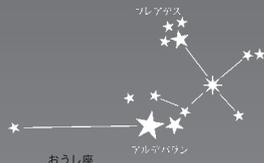


ポラリスを仰ぐ北の大地から



寿都神社祭

寿都医師会 会長 き どういんひさつぐ 禰答院尚嗣

私の地元寿都町では毎年、海の日の日連休でお祭りが行われます。寿都神社は385年の歴史があります。寛永4年4月に北海道に向かう筑紫国の弁天丸という船が暴風により遭難し漂流後、寿都湾で座礁大破した際、地元住民に無事救助されたことに感謝し、船中に祀っていた弁天神を岩崎村の祠に奉祀、神鏡を納め海上安全の主神としたことに始まります。

お祭りは、各町内会から山車やお神輿、奴さんに扮した行列などに参加した、子供から大人までが、町内を2日間かけて練り歩きます。神社を出発し神社に戻るルートです。

練り歩きながら、ふるまってくれる家々を周り、子供はお菓子にジュース、大人は、鮎や海鼠などの地元で獲れた山海の珍味とお酒をいただきます。高齢者が多い町なので、最近は喪中の家が多く、年々、ふるまってくれる家が少なくなってきています。お祭りを楽しむために、地元を離れた人々が帰郷するので、祭りの時は街も賑やかになります。

今年はコロナの影響で、4年ぶりの再開となりました。

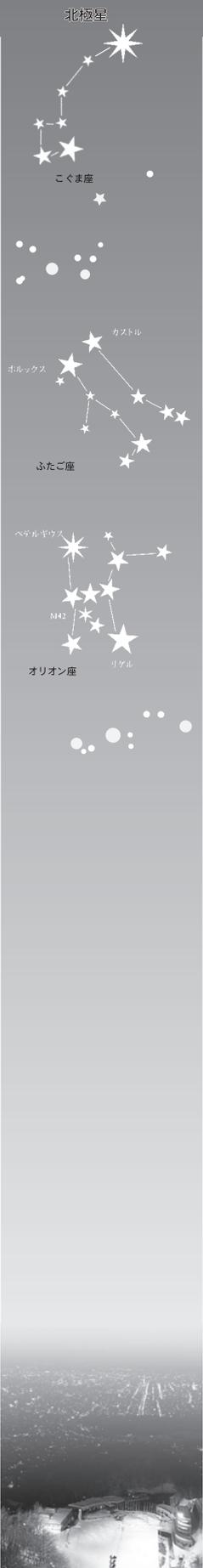
コロナ感染に配慮し、時間短縮、練り歩く距離も短縮、ふるまいは家の中に入れず、家の外のみとなりました。

お祭り1日目は風速10mの大雨の中行われました。雨がひどく、ふるまわれるのはお酒ばかりで、食べるものはあまりありませんでした。どの隊も、寒さのため日本酒ばかり飲む人が多く、神社に戻る頃には酔っ払いが続出していました。特にお神輿隊は神輿を担ぐ人数が少なくなり、神社にはぎりぎりでもどるような状態でした。

2日目は天気に恵まれ、無事お祭りを終えることができました。3年間お祭りが中止され、お祭りの縮小ムードが漂っていましたが、お祭り後は元に戻ったほうがいいという声が多く出ていました。

高齢化、人口減少で昔のように華やかにはできなくなってきていますが、今後もこの伝統あるお祭りが続いてほしいと思います。

皆さんも一度いらして参加してみてもどうでしょうか？



9月になれば

夕張市医師会 会長 ちゅうじょう としひろ 中條 俊博

この原稿に頭を悩ませているのは八月初旬、異常な暑さで至る所で熱中症警戒アラートが発表され、当院にも何人も熱中症で運ばれてきた。

札幌のホテル料金は高騰しガソリン代も跳ね上がった。また目を背けたくなるような猟奇的な事件もあり、また長引いたコロナ感染症からの解放で一気に人々は観光地や盛り場に流れ出た。そんな人の流れと環境の変化に戸惑っている。

そんな中でも、とろけるような果肉と芳醇な甘い香りで名高い「夕張メロン」は出荷のピークを迎えている。

本市農家の後継者不足等の影響で、生産量は年々減少傾向にありますが、生産者の弛みない努力によって、数年前よりも販売価格やブランド力はむしろ高まりつつあるようです。

市内の農家は、かつては200戸以上あったと言われますが現在は92戸で年々減少しておりますが、生産量が減少しても、昔も現在も品質を第一に掲げ、今年も多く多くの観光客が本市を訪れ、賑わいが短い夏に彩りを添えました。

こうした中、本市の地域医療を牽引してきた市立診療所が、移転改築し、いよいよ9月から診療等をスタートさせました。

社会医療法人等からの支援による専門医療の確保やリハビリ機能の強化による健康寿命の延伸等をコンセプトに掲げた新施設は、旧施設の約5km南に建設され、指定管理者制度の活用により、診療所を設置しているほか、小規模ながらも介護医療院を併設しています。

高齢化率53%を超え、介護保険の認定率が全国一になる中、令和5年の統一地方選で再選した厚谷司市長は、公約の中で、市民の健康寿命の延伸等を目指し、現在、市民の健康増進や介護予防に取り組んでおり、当会としても協力しているところです。

地域医療体制の目標を見据え、圏域全体で取り組みを進める中、本市においては、市立診療所を医療と介護の中心に置きながらも、当会が引き続き地域医療の推進役を担っていけるよう、全力を尽くして参りますが、今後とも北海道医師会の皆様のご理解・ご指導を賜って参りたいと考えております。

本市の地域医療の推進にお力添え下さった皆様に感謝申し上げますとともに、今後とも、ご配慮を賜りますよう、お願い申し上げます。